

## 25 学院義肢装具士研修会における筋電義手をテーマとした研修について

学院 義肢装具学科 星野元訓 中村喜彦 丸山貴之 吉岡久恵 那須祐介

### 1. 背景

当学院では、義肢装具士の現任者教育の一環として、専門知識と技術の習得を目的とした研修会を開催している。近年は専門性が高く、義肢装具士における知識と技術の向上、および専門家数増加の必要性が高い靴型装具と姿勢保持装置に関する内容を隔年で交互に開催してきた。一方、筋電制御による電動義手（以下、筋電義手）もまた、専門性を要する分野である。筋電義手は、かつては公的支給制度の対象が限定的であったが、平成 25 年以降、支給対象が大幅に拡大された。さらに、令和 3～4 年度の補装具装用訓練支援事業では小児用筋電義手が対象に含まれるなど、国の政策として普及が推進されている。今後、さらなる普及が期待される一方で、教育面では課題も多い。義肢装具士養成校では筋電義手に関する授業が行われているものの、授業時間や内容には大きな差がある。また、国内では義手症例自体が少なく、製作・検査・リハビリテーションに必要な専用機材を備えた施設も限られているため、技術の標準化が困難な状況にある。

筋電義手に関する座学形式の研修会は散見されるものの、現任の義肢装具士が実際の切断者を対象に製作・適合を学ぶ機会はほとんどない。そこで、筋電義手の普及促進を視野に入れ、令和 6 年度の義肢装具士研修会では「筋電義手の製作・適合」をテーマに開催した。

### 2. 研修内容

本研修では、筋電義手の製作および適合に関する専門的知識と技術の習得を目的とした。臨床現場を想定し、前腕筋電義手（顆上懸垂式ソケット）を対象に、切断者を評価、採型、仮合わせ用義手の製作、適合までを実施した。講義は当センター内外の専門家による計 8 講義で構成し、うち 2 講義は対面形式（1 講義はユーザー実演を含む）、残り 6 講義は事前の 10 日間で VOD 形式にて配信した。講義内容は、筋電義手の構成、操作訓練、小児用筋電義手、支給制度など多岐にわたった。製作実習は対面で 3 日間実施し、各受講者が 1 つの筋電義手を製作した。補助スタッフを配置することで作業支援を行い、運営の効率化を図った。なお、部品や適合検査機器の都合により、受講者数は 7 名に限定されたが、定員に達した。

### 3. アンケート結果

学院研修会では終了後に五者択一（とても良い、良い、普通、悪い、とても悪い）および自由記述によるアンケートを実施している。本研修会に対しては、ほとんどの項目で「とても良い」「良い」との高評価が得られた。自由記述では、「すぐに職場で活用できる」「自身の知識不足を補う内容だった」といった研修内容への肯定的な意見が多く寄せられた。実施形式については、「VOD 講義で事前に知識を整理できた」「理解しづらい点を繰り返し視聴することで理解が深まった」との意見があり、日程面では「祝日や土曜日を含み、業務に支障なく参加できた」との評価があった。これらの結果から、本研修は現場のニーズに即した有益性の高い内容であり、実施方法も含めて高い評価を得たと考えられる。